

千代川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 第2期取組状況の報告と 第3期取組方針(案)について

令和8年 6月



国土交通省

1.減災対策協議会の目的

本会議の目的

- 本会議は、取組方針(第2期)に基づく取組状況のふりかえりを行うとともに、第3期に向けた取組方針(第3期)案の承認を目的に開催

水害 国の政策動向 千代川流域の取組

H27.9	関東・東北豪雨(鬼怒川の洪水氾濫)		
H27.12	社会資本整備審議会答申		「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識改革
H27.12	水防災意識社会再構築ビジョン策定		①住民目線のソフト対策 ②危機管理型ハード対策 ③減災協議会の設置
H28.7	第1期 第1回 減災対策協議会		「千代川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」設立
H28.8	第1期 第2回 減災対策協議会		「千代川流域の減災に係る取組方針」の策定(第1期) ※H28-R2
H28.8	台風10号等の一連の台風による豪雨(中小河川の氾濫)		緊急行動計画に基づき以下を追加 ・「大規模水害を想定した排水計画の作成」に係る取組 ・「減災・防災に関する国の支援」に係る取組
H29.6	水防法改訂、緊急行動計画策定		
H30.5	第1期 第5回 減災対策協議会		「千代川流域の減災に係る取組方針(第1期)」の見直し
H30.7	西日本豪雨(平成以降で西日本最大級の豪雨災害)		緊急行動計画の改定に基づき以下を追加 ・「想定最大規模降雨の浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・周知等」に係る取組 ・「迅速かつ適確な情報提供に関する取組」に係る取組
H31.1	緊急行動計画改定		
R2.5	第1期 第8回 減災対策協議会		「千代川流域の減災に係る取組方針(第1期)」の見直し
	第1期の見直し時に反映しきれなかった緊急行動計画の改定内容を第2期に反映		
R3.6	第2期 第9回 減災対策協議会		「千代川流域の減災に係る取組方針」の策定(第2期) ※R3-R7
	第2期取組評価を踏まえて取組を重点取組に位置づけ		
R8.6	第3期 第15回 減災対策協議会		「千代川流域の減災に係る取組方針」の策定(第3期) ※R8-R12予定

第1期

第2期

第3期

今回: 取組方針(第2期)のふりかえりと取組方針(第3期)の改訂

2.第2期取組状況の報告

第2期の目標・3本柱

◆背景

- 水防災意識再構築ビジョンの「施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生する」の趣旨を踏まえ、5年間で達成すべき目標を設定
- 目標を達成するため、緊急行動計画の改定を踏まえた3本柱の取組を設定

◆5年間(令和3年から令和7年度まで)で達成すべき目標

急流河川で水位上昇が急激なため迅速な洪水対応が求められる千代川において、発生し得る大規模水害※1に対し、「逃げ遅れゼロ※2」、「社会経済被害の最小化※3」を目指す

※1 大規模水害:想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水(越水・侵食・洗堀)による氾濫被害

※2 逃げ遅れ:立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

※3 社会経済被害の最小化:大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

◆上記目標達成に向けた3本柱の取組:全54項目

千代川における減災のための目標達成に向け、国土交通省が実施する[防災施設の整備等](#)、[減災・防災に関する支援](#)に加え、以下の取組を実施。

三本柱①

円滑かつ迅速な
避難のための取組

三本柱②

被害軽減の取組

三本柱③

氾濫水の排除、浸水被害
軽減に関する取組

第2期取組項目の概要

- 第2期では3本柱に対して**54項目**の取組を**関係機関一体**となり推進

三本柱①

円滑かつ迅速な
避難のための取組

33項目

情報伝達、避難計画等に関する
事項

- ・河川防災担当職員を対象とした研修の実施
- ・タイムラインの時系列に基づく実践的な訓練の実施 等

平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項

- ・浸水実績等の周知
- ・小中学校等と連携した水害(防災)教育の拡充
- ・避難訓練への地域住民の参加促進 等

円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備に関する事項

- ・地域住民と水防団員に対する水位情報入手方法の啓発活動 等

三本柱②

被害軽減の取組

8項目

水防体制に関する事項

- ・地域住民と水防団が参加した重要水防箇所等の合同点検
- ・水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施
- ・各水防団、分団の受け持ち区間、巡視方法の記載・周知 等

多様な主体による被害軽減対策に関する事項

- ・災害拠点病院等の施設管理者への情報伝達の充実
- ・災害時に活動拠点となる施設の電源設備の耐水性の確保 等

三本柱③

氾濫水の排除、浸水被害
軽減に関する取組

9項目

排水排水施設、排水資機材の運用方法の改善

- ・大規模水害を想定した排水計画の作成
- ・排水施設の操作・運用規則の作成 等

排水設備の耐水性の強化

- ・排水を効率的に進める施設の整備
- ・排水施設等の耐水化の検討 等

その他 4項目

- 防災施設の整備等
- 減災・防災に関する支援

第2期の取組状況

- 6段階の到達レベルを設定し、取組の実施内容を質的に評価 ⇒ **進捗はほぼ100%**
(評価の詳細は国参考資料2を参照)

◆取組の進捗状況

※今回の評価ではレベル0～2に該当する項目は無し

レベル3
1項目
(約2%)
実施中
第2期の目標を達成予定

レベル4
22項目
(約41%)
実施済
実施内容に更新の必要がある項目、
構成機関の防災力向上に資する取組

レベル5
31項目
(約57%)
実施済
作業完了型の項目、機械的に実施
する項目、5か年計画がない項目、
統合する項目

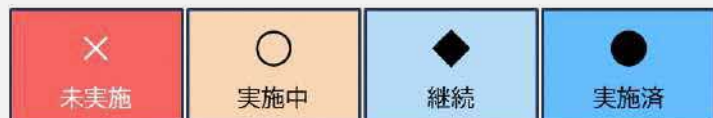


第2期の取組項目について、**概ね目標を達成済み**

◆評価方法

従来の「未実施」のレベルを2段階、「実施中」のレベルを2段階に分け、「継続」「実施済」の意味を再定義することで、取組状況を正確に評価する

従来の評価



質的評価



※なお、今回の評価ではレベル0～2に該当する項目は無し

各機関の主な取組

- 鳥取市、鳥取県、気象台、鳥取河川の主要な取組を紹介(各機関:5分程度)
- 第2期の取組状況としてまとめたものは国資料2を、各取組の実施状況は国参考資料1を参照

鳥取市



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

災害時・平常時におけるSNS、二次元コード等を活用したより分かりやすい防災情報の提供

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:F、AA
■目標時期:H28~R7

スマートフォン向け防災専用アプリケーション

鳥取市 防災

2022年6月 運用開始

緊急情報の
受信を
言葉(言語)
でお知らせ!



鳥取市防災アプリの特長

- 1 緊急プッシュ通知
- 2 防災行政無線・Jアラート連動
- 3 防災地図
- 4 災害3Dイメージ(AR)

ダウンロードはこちらから

鳥取市防災アプリ



災害時に混乱しないために。
正確で、迅速な、最新情報ツール。

9か国語対応!

日本語、英語、韓国語、中国語(簡体)、ベトナム語、ポルトガル語、ドイツ語、ロシア語、フランス語

特徴的な機能を紹介!

緊急プッシュ通知

スマートフォンがマナーモードでも、緊急時には文字と音声メッセージでお知らせするプッシュ通知の設定が可能。

緊急地震速報です



防災地図機能

浸水深や土砂災害、断層毎の震度など災害別ハザードマップが閲覧可能。避難場所の位置も確認でき、アイコンをタップすると詳細情報を確認できる。



マイタイムライン作成機能

避難情報の意味や災害の種類などを学びながら、避難判断タイミングが入った自分専用の防災行動計画を作って備えることができる。



コミュニケーションボード

避難所を想定した会話文章について、英語・日本語・イメージ画像を併記した画像を示すことで、伝えたいことを表現できる。



■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:F、AA
■目標時期:H28~R7

鳥取市防災情報統合管理システム

2025年4月
運用開始

【 課題解消のために生じた需要 】

緊急情報配信業務・操作の簡略化ニーズ = 「誰でも使える」
すべての緊急情報伝達手段を即時配信するニーズ = 「すぐに送れる」

【 システムの「できる」こと 】

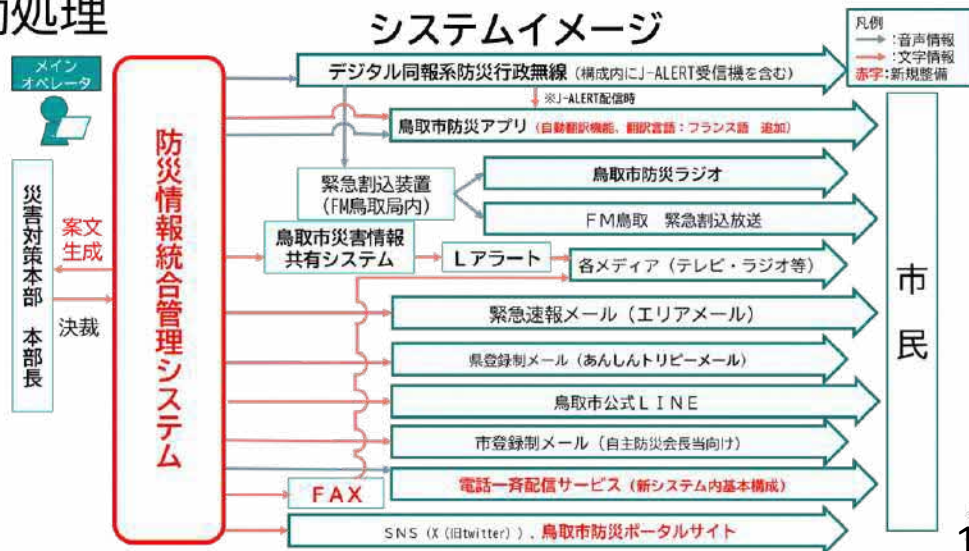
- ➡ 11以上ある緊急情報伝達手段を1つの入力画面で同時配信
- ➡ 手作業していた多言語翻訳を自動処理

システム導入効果

配信にかかる時間を大幅短縮

システムに精通せずとも配信が可能

ネットが繋がればどこでも配信可能



鳥取県土整備事務所



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:F、G、Q
■目標時期:H29～ 定期的に実施

22 水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施

(No.19と統合)

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:B、S
■目標時期:H29～ 継続実施

【千代川水系】

- ☐ 鳥取県主催の水防訓練に参加(展示ブースの出展)(No.19)
- ☐ 鳥取市主催の災対本部運営訓練に参加(令和3年度)(No.19,22)
- ☐ 鳥取県主催の防災連絡会議にJETTとして職員を派遣し、気象解説を実施(令和3年度)(No.22)
- ☐ 鳥取市消防団水防訓練において伝達訓練の実施(令和5年度)(No.22)
- ☐ 総合防災訓練にて各機関等との連携を確認(令和5年度)(No.19)
- ☐ 令和7年度鳥取県水防訓練の実施(令和7年度)(No.19,22)

県市国 令和7年度鳥取県水防訓練の実施

- ☐ 開催日時:令和7年5月18日(日)午前9時～11時30分
- ☐ 開催場所:一級河川千代川右岸河川敷
- ☐ 訓練内容:水防工法訓練、避難訓練、人命救助訓練、情報伝達訓練等、災害時要配慮者避難訓練
- ☐ 参加機関:鳥取県警察本部、鳥取警察署、中国管区警察鳥取県情報通信部、陸上自衛隊第8普通科連隊、国土交通省鳥取河川国道事務所、鳥取県東部広域行政管理組合消防局、各市町防団、鳥取県東部建設業協会、鳥取大学地域安全工学センター、鳥取市、岩美町、八頭町、智頭町、若桜町、わかさ・あすなろ(要配慮者施設)、鳥取県水防本部(河川課)、鳥取県土整備事務所、八頭県土整備事務所



■対象機関(主:赤字 その他:黒字)

鳥取県・中国地整

■課題対応:X

■目標時期:継続実施

【千代川水系】

□ 出水対応に備えて「排水ポンプ車講習会」を実施(毎年)

□ 近年多発している集中豪雨や局地的大雨による浸水被害に機動的に対応するため排水ポンプ車の操作訓練を実施(令和7年度)



排水ポンプ車講習会の概要

開催日時: 令和7年6月3日(火)9時30分~12時

開催場所: 清水川排水機場(大路川と清水川の合流部付近 鳥取市吉成南町地内)

参加者: 鳥取県土整備事務所職員、鳥取県庁河川課、排水ポンプ車操作業務委託業者

訓練内容: 清水川と大路川の合流部付近の河川堤防上にて、排水ポンプ車により清水川から給水し大路川に排水する。

訓練状況



36 小中学校等と連携した水害(防災)教育の拡充

継続

37 防災学習の指導内容に合わせた教材等の作成

継続

(表現変更)

38 学校教育関係者向け研修や講座等学習の場への参加

継続

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)

鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:AD、AE

■目標時期:継続実施

【千代川水系】

- 鳥取県・気象台が中心となり、防災教育を実施(No.36)
- 気象庁eラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」を作成(No. 37)
- 小中学校や出前講座等の防災教育の要望先と調整しながら講座を実施(No. 37)
- 学校教育関係者に対する防災研修会の実施(No. 38)



鳥取県各機関において防災教育を実施



鳥取地方気象台



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

防災学習、研修等を通じた住民への意識啓発

学校の児童、生徒向けの防災学習や地域住民向けの勉強会を実施することにより、防災気象情報の知識普及や命を守るために必要な行動の習得に必要な防災意識の向上を図ることが目的。

実施状況

○広報活動

防災担当者、住民を対象とした防災気象講演会の開催や、小学校の児童を対象としたイベント等に参加し天気への関心を深めていただくとともに、防災意識を高める取り組みの推進。



防災気象講演会



若葉台愛育会フェスティバル

○災害時要援護者向けの勉強会の実施

災害時に情報の入手が困難な高齢者や障がい者、外国人などを対象に、避難行動に繋がる防災情報の入手や活用方法を解説。



外国人防災勉強会（サンマート）

○大雨による災害を想定した防災学習を実施

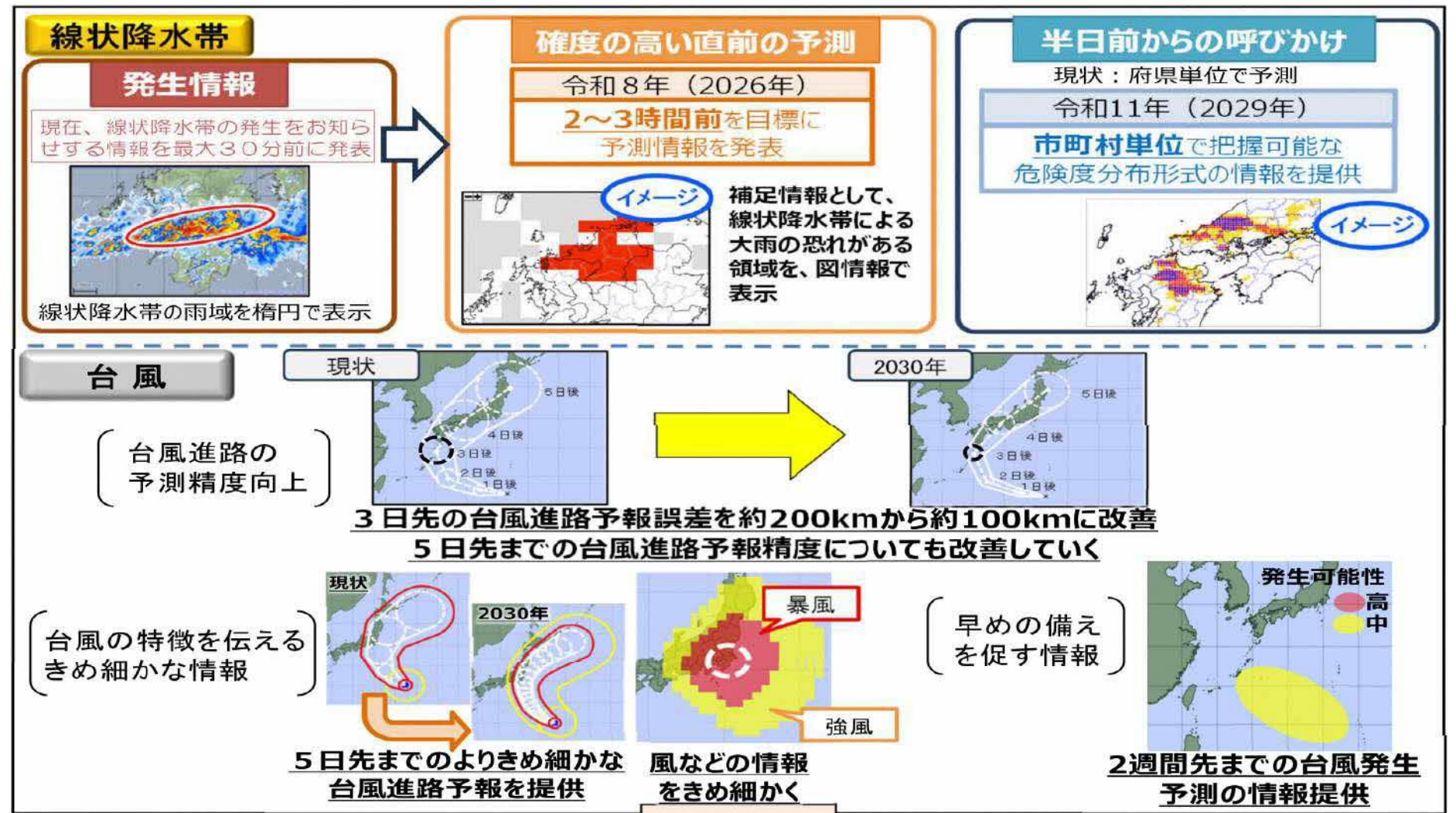
過去の台風・大雨による被害状況の写真などを活用して、大雨によりどんな災害が発生するのか、自分たちが住んでいる地域でどんな災害が想定され、どのように避難行動を取るのか考えさせる。



防災学習（河原第一小学校）

気象情報の充実、予測精度の向上（継続した取り組み）

大気の3次元観測機能など最新技術を導入した次期静止気象衛星の整備をはじめ、観測の強化等により、線状降水帯・台風等の予測精度向上等を図り、防災気象情報を段階的に改善することで、地域の防災対応につなげる。



より精度の高い予測情報を伝え、国民の防災対応につなげていく

鳥取河川国道事務所

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
鳥取市・鳥取県・鳥取地方気象台・中国地整

■課題対応:F、G
■目標時期:継続実施

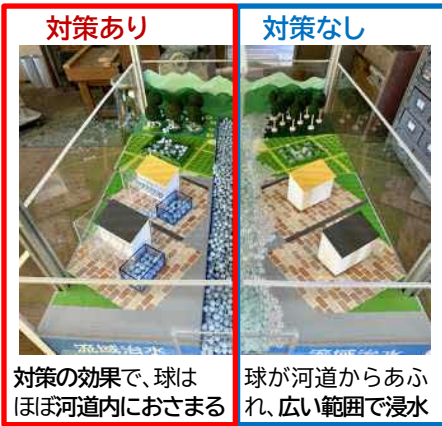
【千代川水系】
□ 鳥取市立 富桑小学校および久松小学校で出前講座を実施(令和6年度)
□ 鳥取市立 大正小学校で出前講座を実施(令和7年度)

流域治水モデルを作成
流域治水広報戦略の一環として、流域住民に流域治水に関する関心・興味を持ってもらうことを目的とし、流域治水対策の効果を体験・体感できるモデルを作成

出前講座の実施概要(令和7年度)

■日時:令和7年11月27日(月) 13:20~15:00
■場所:鳥取市立大正小学校
■対象:小学5年生 2クラス(50名)

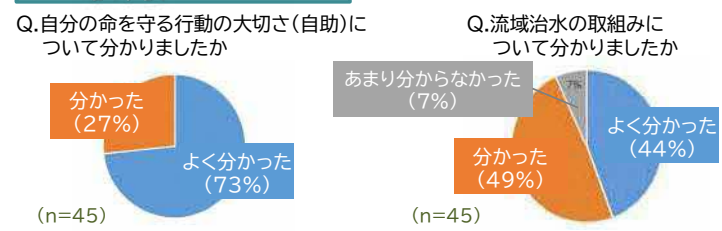
テーマ	内容
1 千代川の特徴	・千代川の特徴
2 地域の特徴	・古海地区の地形 ・古海地区の水害リスク
3 水害からまちを守る工夫～流域治水～(座学)	・流域治水の説明
4 水害からまちを守る工夫～流域治水～(体験)	・流域治水模型を使った実験 ・雨量計の説明 ・令和5年の台風7号の説明
5 水害から命を守るための行動	・避難情報の意味 ・取るべき避難行動
6 避難行動について考えてみよう	・自宅の水害リスクの確認 ・家族の状況の確認 ・避難場所の確認



「千代川フェスティバル」で活用



授業後アンケート



■出前講座の感想(一部抜粋)

- ・もしも川が洪水した時、どこに逃げれば良いかわかりました。
- ・川の事がたくさん詳しく知れてもっと学習したいと思います。
- ・流域治水とは何かや、模型実験でわかりやすかった。
- ・家族にもこのことについて話したいです

■先生からのご意見

- ・貴重な授業をしていただきありがとうございました。自分の住む地域の浸水深や被害の様子などが具体的に分かって、自分ごととして防災について考えられる授業だったと思います。

フラップ化等の無動力化を優先的に整備する対象施設を抽出し、順次整備を実施

■対象機関(主:赤字 その他:黒字)

中国地整

■課題対応:Z

■目標時期:R1～ 順次実施

【千代川水系】

- 千代川下流維持工事を実施し、フラップゲートに改良(令和2年度)
- 浜坂第4樋門のフラップ化を実施(令和7年度)
- 第2期(R3～R7)では樋門5基のフラップ化を実施



浜坂第4樋門のフラップ化(令和7年度)

【整備効果】

- ・ 河川水位上昇による水圧でゲートが閉鎖する構造であり、人為的な動力を必要としない。
- ・ 洪水時に操作が必要ないため、従来の引上式ゲートのように操作員が危険に晒されることがなくなる。



浜坂第4樋門のフラップ化(令和7年度)

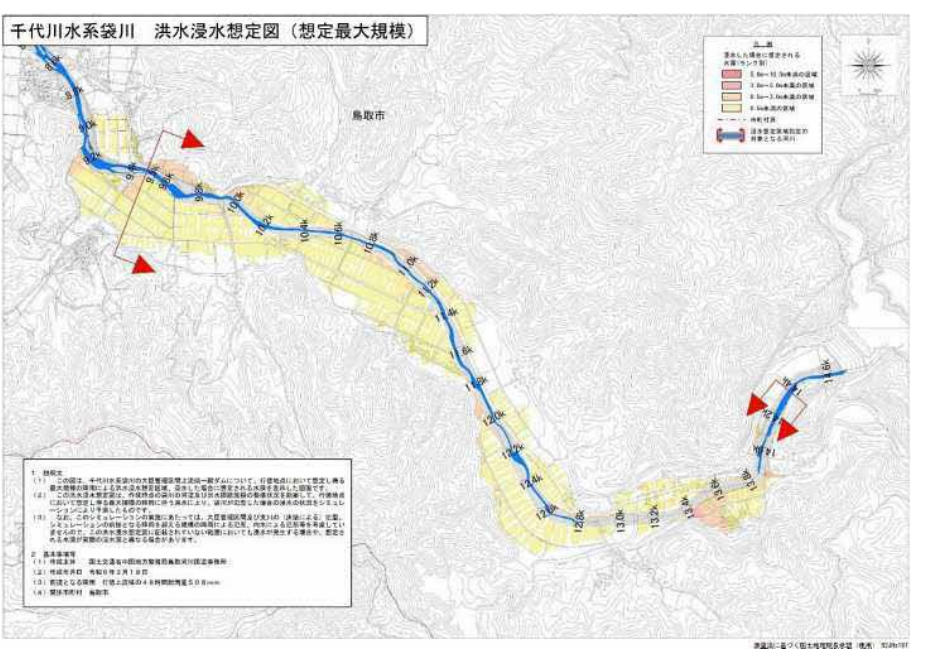
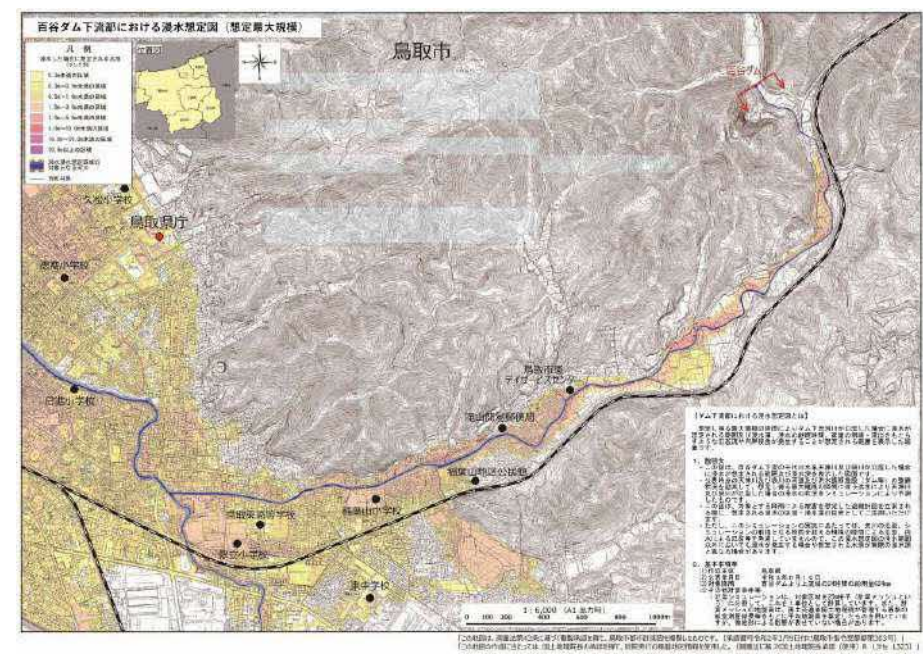
■対象機関(主:赤字 その他:黒字)
中国地整

■課題対応:全項目
■目標時期:R3

【千代川水系】
□ 5箇所の県管理のダム下流部における浸水想定図を作成(令和3年度)

県 ダム下流部における浸水想定図(例:百谷ダム)

国 ダム下流部における浸水想定図(殿ダム)



出典:ダム下流部における浸水想定図(鳥取県HP)

出典:《お知らせ》ダム下流浸水想定図(想定最大規模)について(鳥取河川国道事務所HP)

3.第3期取組方針(案)について

第3期取組方針(案)の概要

- 第2期の取組自体は順調に進捗しているが、水防災意識調査から「**住民の水害リスクや防災情報の認知度・理解度**」が十分ではないと判断(評価の詳細は国参考資料2を参照)
- 第3期取組項目は、住民の水防災意識を向上させ、具体的な防災行動につなげる周知・啓発の取組を**重点的に取組む項目**に分類し、関係機関が一体となり推進する

取組方針の目次構成と主な見直し内容

目次構成	主な見直し内容
1. はじめに	● 第2期取組に引き続き、第3期取組方針をとりまとめる旨を追記
2. 本協議会の構成員	● 鳥取県危機管理局長⇒鳥取県危機管理部長
3. 千代川水系の概要と主な課題	変更なし
4. 現状の取組状況	● 第2期の取組状況を踏まえて修正(意見照会実施済)
5. 減災のための目標	変更なし
6. 概ね5年で実施する取組	● 「 重点的に取り組む項目／継続的に取り組む項目／実施済の項目(作業完了型・機械的対応等) 」に区分する旨を追記
7. フォローアップ等	変更なし



国資料3 第3期千代川水系の減災に係る取組方針(案)

「減災のための目標」⇒第2期から変更なし

◆5年間(令和3年から令和7年度まで)で達成すべき目標

急流河川で水位上昇が急激なため迅速な洪水対応が求められる千代川において、発生し得る大規模水害※1に対し、「逃げ遅れゼロ※2」、「社会経済被害の最小化※3」を目指す

※1 大規模水害:想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水(越水・侵食・洗堀)による氾濫被害

※2 逃げ遅れ:立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

※3 社会経済被害の最小化:大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

◆上記目標達成に向けた3本柱の取組:全54項目

千代川における減災のための目標達成に向け、国土交通省が実施する防災施設の整備等、減災・防災に関する支援に加え、以下の取組を実施。

三本柱①

円滑かつ迅速な
避難のための取組

三本柱②

被害軽減の取組

三本柱③

氾濫水の排除、浸水被害
軽減に関する取組

「概ね5年で実施する取組」の追加

- 「概ね5年で実施する取組」として、第2期までに実施済の取組と、第3期に重点的／継続的に取り組む項目を区分する旨を追記

6. 概ね5年で実施する取組

氾濫が発生することを前提として、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築することを目的として取り組む内容は以下のとおりである。

○千代川は急流河川であり、洪水の到達時間が短く水位の上昇が急激であることから、洪水予報等についてリードタイムの確保が難しい。また、水防管理団体、住民、福祉施設入所者等の避難行動要支援者、道路・交通管理者、民間企業等で必要とする情報とタイミングが異なるものと考えられる。これらを踏まえて、既存のタイムラインについて避難勧告の発令や多様な防災行動を踏まえた見直しを行う（平成29～）とともに、タイムラインの時系列に基づく実践的な訓練を実施する。（令和2年度～）

○千代川の想定氾濫域内には、県庁所在地山陰東部の政治、経済の中枢である鳥取市があり、ひとたび氾濫が起こればその被害は甚大となることが予想される。洪水を防止するためのハード整備や水防体制の強化を図るとともに、冠水による社会経済の影響軽減、早期の道路・交通機能の回復等を目的とした、大規模水害を想定した排水計画を策定する。（平成30～）

○千代川の直轄管理区間において、近年は堤防決壊による激甚な被害を経験しておらず、住民や防災関係者等が洪水の危険性を認識する機会が減少している。また、行政が提供する防災情報について、事態の切迫性やとるべき行動について分かりにくいとの指摘がある。これらを踏まえて、住民へより分かりやすい情報提供を検討（平成29年度～）して提供するとともに、出前講座等を実施して防災知識の普及に努める。また、小中学校等と連携した水害（防災）教育を拡充するとともに、防災関係者の災害対応能力向上を目的とした防災研修を実施する。（平成29年度～）

（新規追加）

○本協議会では、第1期（平成28～令和2年度）、第2期（令和3～7年度）を経て、課題を踏まえて取り組むべき項目を追加し、各機関において、計54項目に取り組んできたところである。第2期のとりまとめにあたり、取組実施状況の質的評価に加え、住民を対象としたアンケートによる評価など、多面的な取組評価を実施した。これを踏まえ、第3期の取組項目を①今後、重点的に取り組むもの、②継続的に実施するもの、③既に目標を達成済みであり実施済のもの（基準変更等により必要があれば実施する項目を含む）に分類し、特に、①及び②を確実に推進することとする。（令和8年度～）

「取組項目」の3区分と重点化について

- 取組項目を①重点的に取り組むもの、②継続的に実施するもの、③実施済に分類
- 次頁以降の検討をもとに事務局案を作成し、担当者説明会(令和7年11/18,25)、意見照会(令和8年3/27)、勉強会(令和8年4/24,27)を実施し、各機関の意見を反映

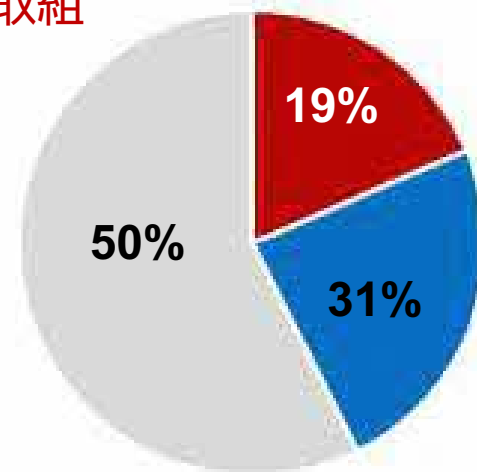
①重点的に取り組むもの:10/54

住民の水防災意識を向上させ、具体的な防災行動につなげる周知・啓発の取組

- ・防災気象情報の提供方法・内容の周知や理解促進の取組
- ・水害リスクを周知する取組

②継続的に実施するもの:13/54

- ・定期的・継続的に情報更新が必要な取組
- ・構成機関の防災力向上に資する取組 など



■ 重点 ■ 継続 ■ 実施済

③実施済(作業完了型・機械的対応等)※基準変更等により必要があれば実施する項目:31/54

(参考)第2期の取組評価による分類方法

- 質的評価結果、水防災意識アンケート調査結果を踏まえ、取組項目を「①重点的に取り組むもの」「②継続的に実施するもの」「③既に目標を達成済みであり実施済のもの(基準変更等により必要があれば実施する項目を含む)」に分類

⇒分類方法は次ページのフロー図を参照

- 目標が重複する取組については取組項目を統合・整理

質的評価結果

アンケート
結果及び考察

取組内容の
修正案

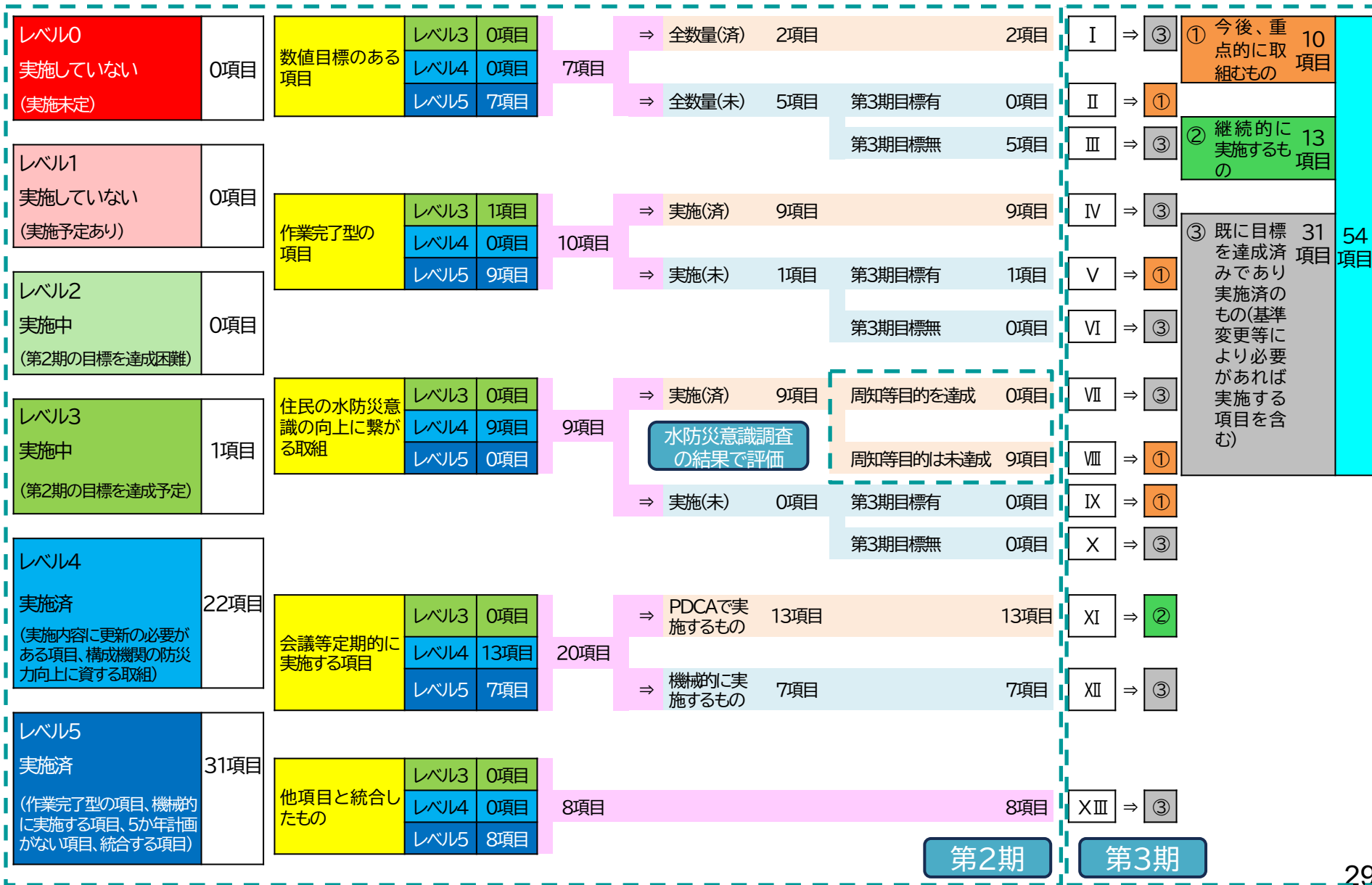
No.	取組内容	実施機関				第3期整理表に基づく令和6年度末時点の状況				第3期整理表に基づく令和7年度末時点の見通し				質的評価結果				アンケート結果及び考察	取組内容の修正案
		鳥取市	鳥取県	鳥取地方 気象台	鳥取河川	鳥取市	鳥取県	鳥取地方 気象台	鳥取河川	鳥取市	鳥取県	鳥取地方 気象台	鳥取河川	鳥取市	鳥取県	鳥取地方 気象台	鳥取河川		
1	想定最大規模降雨による浸水想定区域図、氾濫シミュレーションの公表	—	—	—	●	／	／	／	実施済	／	／	／	実施済	／	／	／	レベル5	—	実施済 ※公表は済、水害リスクの周知に係る別取組で継続
2	想定最大規模降雨による浸水想定区域図に基づくハザードマップ(総合防災マップ)の作成・周知	●	○	—	○	実施済	継続	／	継続	実施済	実施済	／	継続	レベル5	レベル5	／	レベル5	各取組機関が様々な形で千代川流域の浸水深を公表しているが、自宅の浸水深を調べる行動に至っていない住民が多い(約6割)。	実施済 ※水害リスクの周知に係る別取組はNo10で継続
3	想定最大規模降雨による浸水想定区域図における避難場所の検討	●	○	—	○	実施済	実施済	／	実施済	実施済	継続	／	実施済	レベル5	レベル5	／	レベル5	—	実施済 ※浸水想定区域図を作成している
4	想定最大規模降雨による浸水想定区域図に基づく避難対応の検討	●	○	○	○	継続	継続	実施済	実施済	継続	継続	実施済	実施済	レベル4	レベル4	／	レベル4	—	継続 ※協議会構成員で継続的に検討・実践が必要
5	広域避難計画、垂直避難等を反映した避難誘導体制の検討	●	○	—	○	継続	継続	／	実施中	継続	継続	／	継続	レベル4	レベル4	／	レベル4	—	継続 ※協議会構成員で継続的に検討・実践が必要
6	避難指示の発令に着目したタイムラインの見直し	○	○	○	●	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	レベル4	レベル4	／	レベル4	—	No8と統合 ※多機関連携型タイムラインを作成・運用しているためNo8と統合
7	住民、福祉施設入所者等の避難行動要支援者、道路・交通管理者、民間企業、マスコミ、ダム管理者等と連携したタイムラインの運用	○	○	○	●	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	レベル4	レベル4	／	レベル4	—	No8と統合 ※多機関連携型タイムラインを作成・運用しているためNo8と統合
8	タイムラインの時系列に基づく実践的な訓練の実施	○	○	○	●	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続	レベル4	レベル4	／	レベル4	—	表現変更(継続) 多機関連携型タイムラインの運用、訓練によるブラッシュアップ ※協議会構成員で継続的に検討・実践が必要
9	災害時・平常時におけるSNS、二次元コード等を活用したより分かりやすい防災情報の提供	●	●	●	●	継続	継続	実施済	継続	継続	継続	実施済	継続	レベル5	レベル5	／	レベル5	直近の大雨で気象庁HPや鳥取県防災情報、あんしんトリプルメールなど、構成機関が提供しているサービスも広く利用されており、取組の認知が進んでいると見える。一方で、普段使い慣れている民間天気アプリや、テレビを使って入手した住民が多いため、メディアと連携した防災気象情報の提供が重要と考えられる。	No17と統合 ※No17防災気象情報の提供方法・内容の周知や理解促進として継続



国参考資料2 第2期の取組の評価結果

(参考)第2期の取組評価による取組項目の区分方法

● 以下のフロー図で取組項目の区分を実施



4.令和8年度のスケジュール(案)について

令和8年度の取組予定(案)

